

LAW SCHOOL
LAW
Juris Doctor

X “法科大学院”と“あなた”が拓く
新しい法律家の未来

Education
SCIENCE
BUSINESS
technology
YOU

多様化する“法務”

新しい法律家像へ——企業や官公庁、地方公共団体における

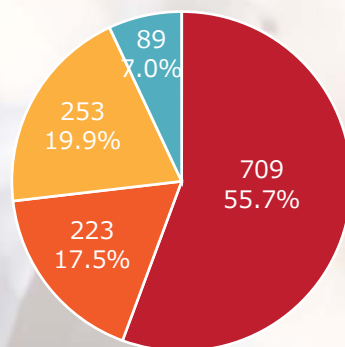
拡大する活躍の場

法科大学院は21世紀の司法を支える法曹を育成するため、司法試験という「点」のみによる選抜ではなく、「プロセス」としての法曹養成制度の中核的機関として創設され、以来10年以上にわたって修了生（法務博士）を社会の様々な分野へ送り出してきました。

近年は、法科大学院の学生募集停止などの問題が取り上げられることがあります。その一方で、旧来の法曹像とは異なる新しいキャリアを切り開いた修了生の活躍により、法科大学院とその修了生の存在は社会での認知度を増しています。今では、その能力を高く評価し、法曹三者のみならず積極的に修了生を採用する機関が増えており、修了生の活躍の場は多様性を増しています。

司法試験の合格にかかわらず、企業の法務部等に就職するケース、法科大学院で得た知識を活かして公務員試験に合格し、官公庁に就職するケース、法律事務所に就職した弁護士がインハウスローヤー（企業内弁

▼修了生の就業先業種



公的機関や企業など新たな活動領域へ

■ 法律事務所
■ 公的機関
■ 民間企業
■ その他

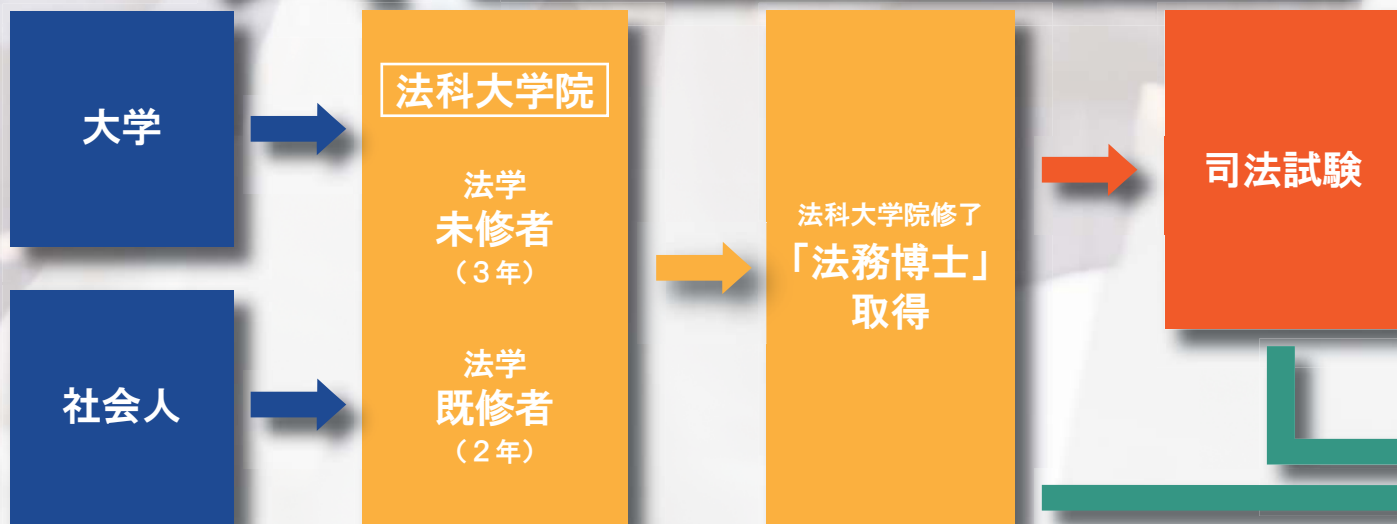
(有効回答数 1,274)

護士)に転職するケース、社会人が退職又は在籍したまま入学し、修了後、職場で法務人材として活躍したり、社会人経験を生かして別の業種に挑戦するケースもあります。

一方、採用側においても、修了生への評価は高く、今後、修了生の活動領域の拡大は加速していくものと見込まれます。

▼法科大学院入学から就業までの流れ

早期卒業・飛び入学制度を活用した場合
最短5年(学部3年+法科大学院2年)で修了

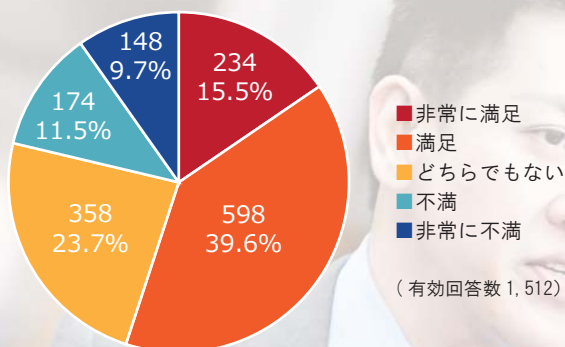


※ 各グラフは、2015年12月から2016年3月に全国の法律事務所、中央省庁・地方公共団体、民間企業、その他団体と各機関に在籍する法科大学院を対象に文部科学省が実施した「法科大学院修了生の活動状況に関する実態調査」におけるアンケート調査結果の回答を集計。
※ 本誌における「法務博士」とは、法科大学院を修了し、「法務博士(専門職)」の学位を取得した者を指す。

博士”のキャリア

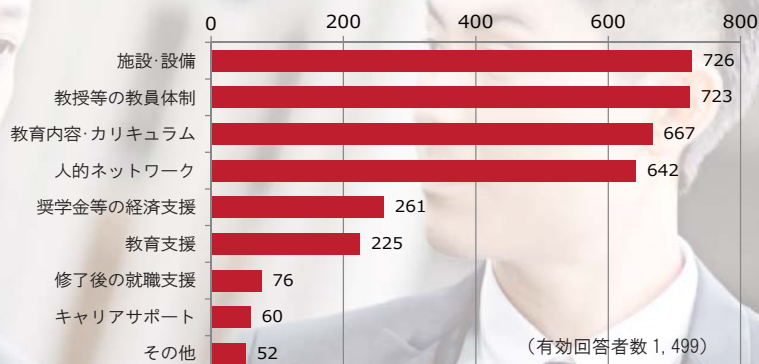
る活躍、社会人のキャリアアップ——

▼修了生の法科大学院教育に対する満足度



修了生は法科大学院教育を積極的に評価

学修に打ち込める施設・設備、教員体制や充実したカリキュラムの他、人的ネットワークも魅力のひとつ



▲修了生を考える法科大学院の魅力 (複数回答可)

直近の修了年度別司法試験累積合格率は、法学既修者の場合

1年目の司法試験合格率は約**50%** (平成26年度修了生)

3年目までの司法試験累積合格率は約**70%** (平成24年度修了生)

(平成27年度現在)

司法修習

法曹三者

公的機関
企業等

【国家公務員総合職試験 (事務系区分)】
平成25・26年度採用者のうち
約**10%**が法科大学院修了生

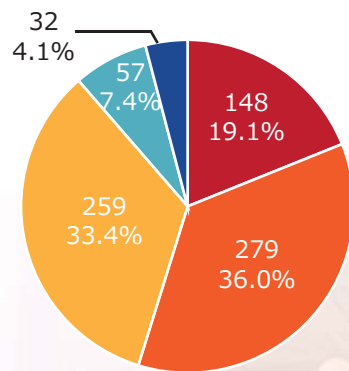
〔平成25年度：法科大学院出身 10.7% 公共政策系大学院出身 9.4%〕
〔平成26年度：法科大学院出身 11.1% 公共政策系大学院出身 9.5%〕

(「公務員白書 平成26年度年次報告書」より)

法律事務所

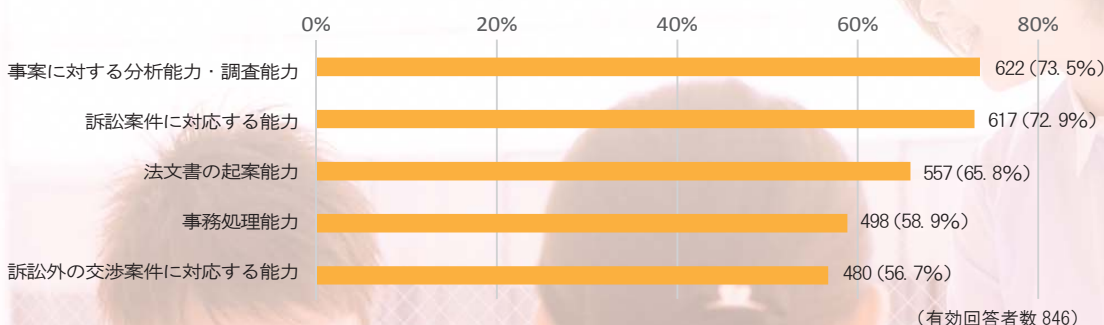
▶ 修了生に対する法律事務所の満足度

非常に満足 ■
満足 ■
どちらでもない ■
不満 ■
非常に不満 ■
(有効回答数 775)



紛争解決への基礎的な能力に対する期待が高い

▼ 法律事務所が修了生に期待する能力・資質 (複数回答可・一部抜粋)



法律事務所に就職した修了生のメッセージ

20代女性 大手総合法律事務所所属弁護士

法科大学院では、座学よりも学生や先生方と議論したり、判例の調査・検討などに取り組んだり、**実務に近いシミュレーションがあるのが良かった**です。正解がなかったり、今までなかったような事件にどう対応するか知恵を絞ったりすることが弁護士の醍醐味、魅力であり、法科大学院での学修が大いに役立っています。

30代男性 外資系法律事務所所属弁護士

人と話して、相手の意見を聞いて、自分の意見に反映させる——法科大学院は学部と違い、「**覚える**」ことよりも「**考える**」ことが中心であり、授業や友人たちとの議論の中で考えることの基本作法を学ぶことができたと思います。ともに学んだ友人たちや議論をした研究者・実務家教員たちとは今でも交流があり、そのつながりが今の業務にも活かしています。

企業法務系法律事務所 パートナー弁護士

以前の新卒に比べ、リサーチに関する基礎的なところができており、判例の考え方を整理する能力が高い傾向がある。また、採用するのに重要視するポイントである読解力、文章作成能力、口頭表現力についても、現場の実務に近いところが伝えられており、**実用的な訓練**ができていていると感じる。

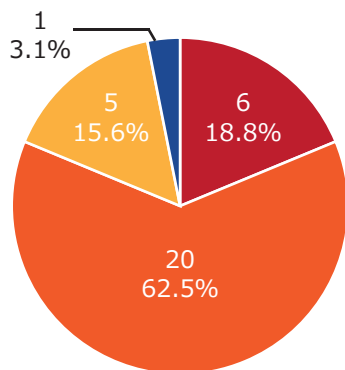
これはアメリカのロースクールに近い実務寄りの教育で対話式授業が増え、かつ、実務家教員の指導を受ける中で養われたのではないと思う。法科大学院修了生には非常に満足している。

中規模・一般民事系法律事務所 代表弁護士

地方ではまだまだ司法サービスがいきわたっておらず、弁護士が広く活動の場を求めていく余地は十分ある。例えば、民間企業で長く勤務していた社会人が、普段の仕事や社会生活の中から法律に関する問題意識を持つようになり、法科大学院に入学して業界に飛び込んでくる場合がある。そのような人は、**これまであまり取り上げられることの少なかった分野で熱心に取り組み、優れた成果を挙げている**。高い感受性や人としての信頼感など、それまでのキャリアで培った弁護士として有意な資質を備えており、法科大学院修了生ならではの特徴と言える。

採用者の声

裁判官、検察官、国家公務員や 地方公共団体など、多様な領域で活躍



◀ 修了生に対する 公的機関の満足度

- 非常に満足
- 満足
- どちらでもない
- 不満
- 非常に不満

(有効回答数 32)

公的機関の
8割以上が
修了生を高く評価

公的機関

公的機関等に就職した修了生のメッセージ

30代女性 地方検察庁所属検察官

体系的な知識を一から十まで網羅的に学んだ上で、ケーススタディで実践的に学ぶという環境は、法科大学院の魅力のひとつです。働き始めるとどうしても専門分野に特化せざるを得ず、網羅的な勉強をすることが難しくなります。様々なケースを学べる貴重な期間ですから、実務で未知の事案などが出てきたときに対応できるよう勉強、練習しておくことで社会に出てから生きてくると思います。

30代男性 地方公共団体所属弁護士

法科大学院では、友人たちと自主ゼミをつくり、模擬試験、模擬裁判等を行いました。座学でひとりで勉強するよりコミュニケーション能力、議論における反射神経が培われましたし、手続きの身につけ方はだいぶ違ったと思います。在学中は司法試験にとらわれがちですが、不思議なもので、冒険心を持って司法試験以外について勉強したことが後々社会に出たときに役立つものです。実際に、そういう余裕のある人が受かっていましたし、目先の合否にとられない人が社会に出てからも活躍できると思います。

20代女性 国立大学法人所属弁護士

学部の勉強というのは結局、座学の域を超えません。試験を受けて単位を得ても、具体的な弁護士像や実社会への影響を感じられない、まさに「勉強のための勉強」です。それに対して法科大学院の勉強は、実務系の科目もありますし、基礎系の科目でも様々な知識が業務に活かされています。

中央省庁 人事担当者

学部卒より法律的な知識は勿論のこと、人格的にもしっかりとした人が多い印象を受ける。

業務上、法律を扱うことが多いため、法令制定および改正などの立法業務においても、法科大学院で学んできたことが活かされているように思う。人事評価も高い。

やはり法律を実務に関連させてしっかり学んでいる分、法学部卒よりも実務へのキャッチアップが早いのが強みだと思われる。また、勉強や努力に裏付けられた自信が、先に述べた「しっかりしている」という印象を与える理由だと感じている。

地方公共団体 人事担当者

法曹資格を持たない修了生については、一般の職員採用ルートで採用しており、有資格者については、任期付職員として採用している。近年、地方公共団体においてもコンプライアンス整備などが必要になっており、数年前から積極的に採用活動を行っている。

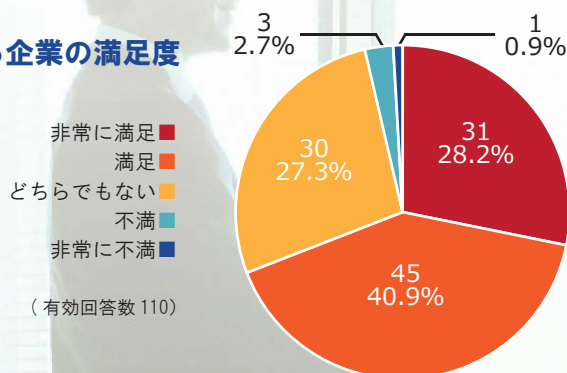
また、自分の話を自分の言葉で話せる人を採用したいという方針があるが、法律の勉強をしてきた人は言葉の使い方や話し方が達者だと感じる人が多い。面接でも説明能力の高さを感じるが、これは法科大学院在学中に鍛えられるからだと思っている。

採用者の声

企業

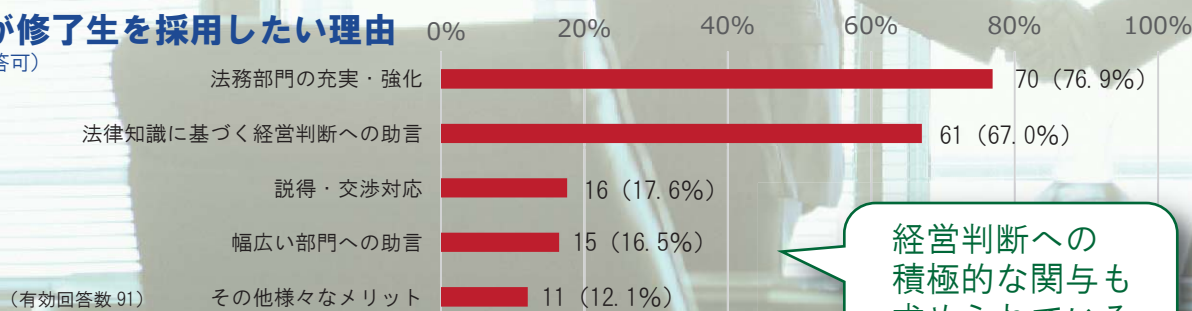
法務部門にはとどまらない期待 採用側の満足度が高いのも特徴的

▶ 修了生に対する企業の満足度



▶ 企業が修了生を採用したい理由

(複数回答可)



経営判断への積極的な関与も求められている

企業に就職した修了生のメッセージ

30代女性 製薬会社所属弁護士

私が入学した法科大学院は、**教員の半分が実務家教員**だったので、実務の最先端にいる教授から直接、実務の授業を受けることができたのは素晴らしい経験になりました。弁護士として登録しなくとも、法的素養を持ったビジネスマンは社会で優位性を発揮できると思うので、法曹に限らず様々なキャリアプランを考えながら勉強することが重要だと思います。

20代男性 金融会社所属弁護士

私は会社へ相談し、企業派遣で法科大学院進学を決めました。学部で受験勉強をしていた経験からすると、法科大学院の授業内容は質・量ともに素晴らしく、**学部と圧倒的、根本的にレベルが違います**。実務家と接しながら、判例分析能力を高めることができ、実務に非常に近い内容の勉強ができるのは大きな魅力です。個人的には社会人経験を積んでから、法科大学院へ行ったのは良かったと思いました。**社会人こそ学ぶことが多く**、実務経験に加えて法的知識を得ることで、実務に復帰した後の幅広い業務につながるのです。

大手小売業 法務部長

修了生は事業における**問題の本質を把握する理解力**に優れている。問題に対して**仮説を立てて整理し、その一つ一つを論理的に解決していく姿勢**を持っており、法科大学院においてOJTで代替できない部分のトレーニングがなされている印象がある。また、文章表現能力や口頭での説明能力が高く、**ロジカルなフレームで考える習慣が身につけており、かつ、自分の考え方を外に発信することを授業の中で鍛えられている**からではないかと思われる。MBA取得者など**思考の過程で類似性を有しており、法科大学院で良い教育がなされているのではないかと感じる**。

大手製造業 法務部 次長

弊社では**司法試験の可否を問わず、法科大学院修了生の採用活動に取り組んでいる**が、修了生は総じて真面目な人が多い印象を持っている。また、国家試験の中でも最難関と称される司法試験にチャレンジしてきただけあって**根気のある人が多い。机に向かう持久力、リーガルリサーチ力、論理的思考力に優れ、論点の要約が上手い**。あらゆる物事に対する**問題意識が高く、本質をとらえる能力に長けている**と思う。

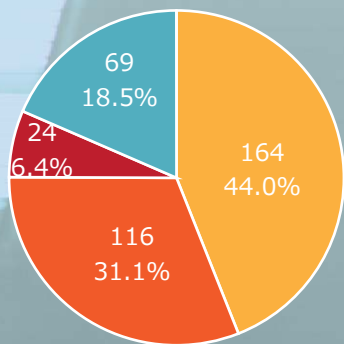
修了生の多くは法務部に所属しているが、他部署からの評価も高く、修了生を欲しがらる部署も多い。

採用者の声

▼企業が修了生に期待している能力 (複数回答可)



法務・コンプライアンス・交渉など幅広い活躍への期待



◀法曹資格を有しない修了生の就業先業種

- 民間企業
- 公的機関
- 法律事務所
- その他

修了生の能力を活かせる場所は多い

20代男性 大手証券会社 金融商品開発部所属

残念ながら私は司法試験には合格できませんでしたが、今の会社に就職後、法科大学院で法律を深く学んだ法務人材として、会社から重宝されていることを日々実感しています。在学中はどうしても司法試験合格ばかり考えがちですが、今は昔の法曹像と異なり、企業や公的機関など様々な選択肢があります。法曹三者にこだわらず、柔軟性をもって進路やキャリアを考えてみるのが良いのではないのでしょうか。法曹資格がなくても、ビジネスに携わっている人たちの話を聞いて、法律がいかに社会に役立っているか、法務人材を求める領域がいかに多くあるか、修了生の能力を活かす場所は多くあるのだということを私は社会に出てから実感しましたが、是非皆さんには在学中からそのことを理解し、勉学に励んでいただくと良いと思います。

法的素養を活かして ビジネスに参画して欲しい

大手金融サービス業 人事部 マネージャー

弊社に限らず、企業は司法試験の合格を問わず法律の勉強してきた人を雇いたいし、評価する。どの企業も法的見解だけを求めているわけではなく、法的素養を生かしてビジネスに参画して欲しいと考えているのではないかと。だから、修了生は必ずしも法律に特化する必要はなく、法的素養をひとつの武器として持って活躍する柔軟性が必要になってくると思う。入社して業務を覚えてもらいながらステップアップしてもらいたいと考えているし、その中で法律に関する知識を業務に活かしてもらいたい。

法科大学院を修了して、弁護士になるのがすべてではない。法的素養がある人ならば、法務部だけではなく、将来的には戦略事業部や経営企画部等に参画して、企業の中核的人材として活動してくれることも期待できる。

法務博士が切り開く職域

